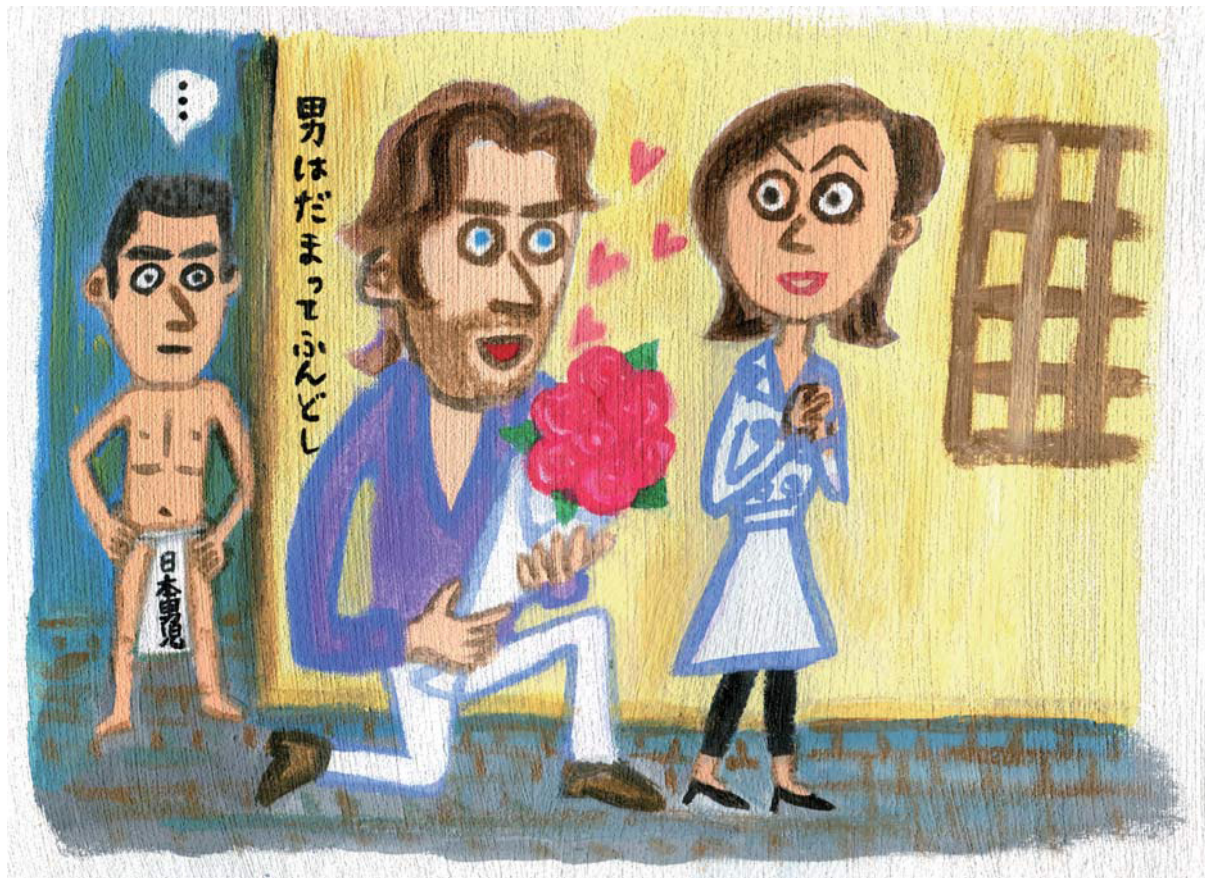


コトバカっ!



男はだまってふんどし

コトバカ

言葉家……言葉を操る専門家。言葉にバカに詳しい人。言葉にバカみたいにこだわる人。

コトのほかバカ。コトによるとバカ。コピーライターの俗称。

上から読んでも相川藍、下から読んでも相川藍。コトバカの相川藍が言葉についてコトバカルっ!

くじきはひなりー!

映画のセリフって勉強になる。最近では『引き裂かれた女』というフランス映画。お天気キャスターの女の子が、妻のいる初老の人氣作家の部屋に連れ込まれ、「ここに連れてきたのは私が初めてじゃないわね」などと言う。さあ、女たらしの作家は何と答えるか?

「君が初めてだよ」では説得力ないし「せいぜい数人さ」もリアル過ぎて面白くない。正解は「君が最後かも」でした。女つてやつは、最初の女ではなく最後の女になりたいもの。「かも」の使い方も、手だれの遊び人っぽいなあ。くーっ!

ラテン系の男は、女性を口説くときも「キレイだね」なんて普通のことは言わない。外見だけが私の魅力なのかとか、キレイじゃなくなったらどうなのよとか、瞬時に不満をもらす女の凶々しさを熟知しているからだ。もちろん「心がキレイだね」とか言っても女心はつかめないわけで。そんなとき、ラテン男はアクセサリーや口紅の色をほめる。つまり、センスや努力を含めた容姿をたたえるのです。

フランス人に口説かれた友達の話。彼女はノーマイク、ノーマイクセサリーだったそうで、つまり、ほめるところがない。無神経な男

なら「なんで化粧しないの? もつたないよ」とか言いそうだけど、友達はどう言われたんだって。「なんでジュエリーをつけないの? ああわかった、君自身が宝石だからだね!」と。くーっ!

彼らは、自分をアピールするときにはどんな手を使つか。「俺ってこんなにスゴいんだぜ」的な自慢話はまずしない。「俺はこんなに情けない人間なんだ」と弱みを見せつつ「だけど君が好きだ」と母性本能をくすぐる。相手が機嫌を損ねたら、翌日ゴージャスな花束を贈り、少年のような上目づかいでゴメンネと言っ。

ただし、結論から言えば、口説き上手な男は要注意。『引き裂かれた女』のお天気キャスターも、情熱的なラテン男たちのせいで、ひどい目にあうんだから。口下手な日本人男性のほうが……つまらないけど、スタスタにはされないかも。

あいかわ あい ことばか
相川 藍 (言葉家)

丸の内文学賞 (大賞)、朝日広告賞 (最高賞)、インターネット書評コンテスト (最優秀賞) 受賞。早稲田大学第一文学部卒。コピーライター。